

審議会等会議録

会議の名称	平成25年度第2回伊賀市総合計画審議会
開催日時	平成25年6月19日(水) 14:00~17:00
開催場所	ハイトピア伊賀 5階 多目的大研修室
出席者	<p>委員</p> <p>福田 圭司(三重県危機管理地域統括監兼伊賀地域防災総合事務所長) 谷村 繁之(上野西部地区住民自治協議会総務広報人権部会長) 松崎壽和子(阿波地域住民自治協議会環境保全部会員 女性部会「あわてんぼう」代表) 菊山 順子(伊賀市外国人住民協議会副会長) 平井つゆこ(伊賀市民生委員・児童委員連合会会長) 坂本 元之(伊賀市障がい者福祉連盟会長) 堀川 一成(上野商工会議所副会頭) 宮寄 慶一(一般社団法人伊賀上野観光協会副会長) 市川 亮太(公募委員) 篠原 辰明(公募委員) 鈴木八千代(公募委員) 村山 邦彦(公募委員) 岩崎 恭典(四日市大学総合政策学部教授) 相川 康子(特定非営利法人NPO政策研究所専務理事) 中村 忠明 立田 彰子 武田 恵世 山本 秀美</p>
	その他
	事務局

		福田 雄高（企画財政部企画課主査） 半田 政之（企画財政部企画課主任）
議 題		1 あいさつ 2 議事録署名者の指名について 3 第1回審議会質疑内容の確認について（資料1） 4 審議事項 新しい伊賀市総合計画（基本構想）の骨子について（資料2、3、4） 5 その他
公開・非公開 の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開（傍聴者人数 10人） <input type="checkbox"/> 一部非公開 <input type="checkbox"/> 非公開
	非公開の理由	
会議資料		事項書 審議会委員名簿 資料 1 第1回総合計画審議会質疑の要点 資料 2 新しい総合計画（基本構想）の論点 資料 3 新しい伊賀市総合計画「政策」と「施策」について 資料 4 新しい総合計画の骨子（案）
審議の内容		進行：藤山課長 ◇会議の成立の確認 出席者18名、欠席者2名、条例第6条2項より成立 ◇会議の公開 条例及び運営規定に基づき、公開とする 1 あいさつ ・松崎会長あいさつ ・岩崎委員、中村委員自己紹介（前回欠席のため） 2 議事録署名者の指名について ◇議事録 運営規定第4条に基づき、堀川委員、市川委員を署名委員とする 3 第1回審議会質疑内容の確認について（資料1、参考資料1） ・資料1、参考資料1について説明（事務局）

(委員)

メールでも問い合わせたが、新市建設計画で合併特例債を使ってどういった事業をしているのか。計画期間、費用、進行状況を教えていただきたい。

(事務局)

委員からメールをいただいたのが本日の11時過ぎで、それから内容について準備できる範囲のもので考えたが、現在資料として出せるものは出来ていない。合併特例債を使った事業は、市道の建設、ハイトピアを含めた駅前再開発、地区市民センターの整備事業、しらすぎ運動公園の整備事業、町並み環境整備事業などが主なものであり、その他数多くあるが、今現在、整理はついていない。

(委員)

大体いくつぐらいで、総額どれぐらいか。

(事務局)

事業本数は多岐に渡るので整理できていないが、金額は平成25年度の予算の見込み分を含め、借入の見込額が226億3690万円となっている。これは事業分の借入済みの分で、あと使える金額は、200億強がまだ起債していない状況である。これとは別に基金を積み立てることが出来、それは既に28億5000万円借りており、発行残高はあと9億5000万となっている。

(委員)

それは金利をどれぐらいで借りているということになるのか。

(事務局)

合併特例債の金利は、年度によってバラバラで、借入期間もバラバラなので、一概には言えない。

(委員)

市民感覚としては、伊賀市は何年のローンを組んでいるのか、ということである。

(事務局)

基本的にハード系の建設事業に関わる分については概ね 10 年程度の起債となっている。備品、機械関係の分については5年程度の借入期間の想定となっている。

(委員)

金利は2%より安い。

(事務局)

安くなっている。

(委員)

我々の住宅ローンの半額以下なので、市にとってあまり負担ではないと解釈してよいか。負担だと解釈した方がよいか。

(事務局)

一般の家庭と比較するのであれば金利の割合としては低い。

(委員)

市民感覚としては、伊賀市がどれくらい借金を持っていて、きちんと返せるのかということは何となく掴みたい。詳しい資料をお願いしたい。

4 新しい伊賀市総合計画（基本構想）の骨子について

（資料2、3、4、参考資料7、8、「土地マスタープラン概要版」）

・資料2、3、4、参考資料7、8、「土地マスタープラン概要版」について説明

（事務局）

(会長)

この項目については、これから策定する基本構想の骨格となる考え方や方向性を委員それぞれの視点、体験から議論いただきたい。まず資料2、3を中心に各委員の意見を伺いたいが、副会長、事務局の説明で補足などがあれば。

(副会長)

これから皆さんで議論していただくので、私から伊賀市はこうあるべきだというようなことは言うつもりはないが、客観的な情勢として人口が減り、高齢者が多くなることだけは絶対だろうと思っている。新市建設計画

の前段に伊賀市まちづくり将来構想をつくった時、2025年に高齢化率35%になっても生き残れる伊賀市であるべきだという将来構想を前提にして、新市の建設計画をつくった記憶がある。それを受けて総合計画が出来、10年を迎えて新たな総合計画になっていくので、日本全体で人口が減っていく中で伊賀市だけ人口が増えるという絵はもう描けないし、コンパクトシティやスマートシュリンクと色々な言い方はあるが、そういう方向性で今後の10年の計画をつくっていくということが、まず皆さんの認識の前提としてあっても良いのではないか。その中で、支所、住民自治協議会で取り組んできたことは、この計画にも反映されていくべきだと思っている。例えば、資料3の、政策としての将来像は「子どもが安心して伸びやかに育まれるまちをめざす」、誰も異存はないと思う。ただ、資料4として原案は事務局でご用意いただき、これに付け加えることや、もっとこういう項目がアンケート調査の結果などを見るとあるのではないかという議論をこれからしていただくが、その時に政策、施策、事務事業の、特に事務事業は市のやることが中心になる。しかし、この行政計画は市がやるべき内容だけではなく、10年後の伊賀市はこうなっていく、その時に今までの蓄積を踏まえて市民・団体・企業がこういうことをやる、そのコーディネートを支所あるいは本庁がやるなど、自治協で活動をしていく中での施策というものが出て来るだろうと思う。例えば、資料3にあるように、政策の部分については当然皆の計画である。施策になると、「地域社会の中で子どもたちが見守られる体制づくりを行う」と例が出してあるが、この体制づくりをするのは誰かということ意識していかなければいけないし、事務事業になると「子ども見守り隊」の活動の支援をするのは市役所だが、実際に「子ども見守り隊」をやるのは、おそらく自治協の中で市民がやるということが出てくる。今日すぐに私たちが、住民がやることというものを堅く考える必要はないが、市にしてもらった計画ではないということである。いずれ事務事業については、市の役割は明確に出さなければいけないが、政策として「子どもたちが安心して伸びやかに育まれるまちをめざす」ためには、市民・自治協の役割も意識しながらこの基本構想の部分で取り上げ

るべき項目を議論する必要がある。

(会長)

市民、自治協の役割ということで、それぞれの立場で団体や企業に関わっている中で、感じるもの、今までに思っていることなどをお話したい。

(委員)

資料2、人口減少を前提として財政縮小、確かに間違いはないと思う。想定される課題が挙げてあるが、人口減少は仕方がないと諦めた上で想定される課題となっている。自治体の中には人口を増やそうと色々な施策を実行しているところもあると思うが、伊賀市は今全くそういう施策が、これを見ていると感じられない。例えば、隣町に住んでいる人に伊賀市の方が住みやすいからこっちへ来てくださいと、そういうやり方もあると思う。最初から人口は減ると諦めて、諦めた条件の中で課題を何とかやっていこうという考え方、その部分も議論に入れて、施策に加えていただきたい。例えば、伊賀市に行ったらいいことがある、子どもを育てやすい土地で、おじいちゃんおばあちゃんも安心して住めるとか、そういうことでどんどん色々な人に来ていただき、生活していただけるようなまちにしてほしい。そのための見方を少しここに加えていただけたら有り難いと思う。

(委員)

この審議会が何をしたら良いのかは、最終的に出さなければいけないものが何かということと関係があると思うが、人は減る、お金は減る、どうしたらいいのかという、課題解決から始まってしまうのはあまり明るくないのではないか。伊賀市がビジョンとして、前回「人が輝く 地域が輝く」というテーマを挙げているが、スタート地点で人口減などというより「勇気と覚悟で築こう未来に誇れるまち」と市長も仰っていて、その辺を軸に伊賀市の何を中心にまとめていくか、基本政策の一番ベースのところに関しては、この審議会最終的に案を出さなければいけないという気がするかどうか。

(委員)

我々の前のこういった審議会は全て人口増加を前提に、夢にあふれた計画を立てていたが、今どうなったか現実を見ていただきたい。もうダメである。例えば、資料の3ページ、伊賀市の将来人口の推計とあるが、厚生労働省の人口問題研究所は様々なシナリオから上位、中位、低位と、さらにそれを3つに分けている。これは中位だと思う。多分これは当たらない。もっと下がる。今までがそうだった。私の試算ではだいたい7万9000人ぐらいになると思うので、もう少し幅を持ってグラフを描いていただきたい。最悪を想定しておいてまず間違いないと思う。もう一つ、こういった計画、いずれも Plan Do See と言われているが、その See がほとんどない。参考資料7、総合計画後期基本計画分野別の実績と課題、これが See に当たるかと思ったが大ざっぱなことしか書いていない。もう少し綿密に See をして、これをしたがダメだったという情報が必要ではないか。例えば資料7を見ると、健康・福祉、「救急医療に携わる病院の診療機能の重点化」は新市長になって、出来てきた感じがある。「魅力ある病院づくり」はまだまだだと思う。生活・環境はダメで、バイオマスはほとんどやっていない。RDF は、ここのはダメである。「城下町の歴史的景観」はもうほとんどない。次の教育・文化は、男女共同参画センターが拠点として色々やるとなっているが出来ていない。産業振興は、「ゆめテクノ伊賀」がどうなっているかというダメである。それから交流基盤だが、名阪名神連絡道路や国道368号線の整備促進、368 はまあまあやっているが、果たしてこれが良いのかどうか。次、しくみだが、定員適正化計画はしていない。「職員一人ひとりの意識改革に努める」これはよく知らない。ということで、もう少し Plan Do See の See を綿密に分析し、夢ばかり追わずに現実を見ながらプランを立てていければと考えている。それから、このまちづくり基本理念は、前回の伊賀市総合計画、2011年とどの辺が違うのか教えていただきたい。

(事務局)

まちづくりの基本理念は、自治基本条例を踏まえ3つの理念ということで、前回と変更はない。

(委員)

言い忘れたが、唯一今人口が増加している町が、那覇だった。20代人口が多い。那覇市は特に何もしておらず、福島第一原発の事故と、20代の人たちが憧れている、それだけのことである。伊賀市は長年人口を増やそうと頑張ってきたがダメだった。名張市より伊賀市の方が住むのに魅力的だと、ぜひそうしたいが、逆になってしまった例が結構ある。例えば、農業をめざして来て伊賀市と名張市、どちらでやろうかと思ったが結局伊賀市は諦めたという方が結構いる。何故かというと土地の値段が伊賀市の方が高い。名張は流動が大きいので地価の変動が大きいし、大抵土地を買うと水道、下水がついている。伊賀は下水はついていない。水道料金も伊賀市の方が高い。残念ながら、名張より伊賀に住んでくれという魅力は今のところはない。何とかなるかということ、難しい。そういう努力を今までしてこなかった。これからしなければいけないと思う。そのための施策を考えていこうということである。

(委員)

人口が減ることはもう食い止めることは出来ないと思う。それをきちんと捉えて、どう町を発展させるかを考えなければいけない。この骨子とまちづくりアンケート結果、市民意識調査の結果の分析を見ていて、分析いただいたのは、課題が大きい満足度が低い問題についてだと思う。その課題は、重要だが出来ていない、解決していかなければならないということだと思うが、それはそれとして、重要度が高く、満足度が高い項目をまず基本にすべきではないか。それを充実して伸ばす。何故かということと市民が非常に重要だと思い、それが今の時点で満足できる、しかし私たちは、市民が満足できるというところでとどまってははいけない。その満足をもっと充実させ、豊かなものにしていくことによって、伊賀市の魅力を引き出せるのではないか。この骨子もそれをまず基本にして、そして課題となるべきところは課題として練り上げていく。ここに書いてある健康・福祉、生活・環境などという分類は役所の仕事上の分類で、横断的な連携がなく、縦割りの弊害が出てしまう典型ではないかと思う。それを取り払って、市民が満足かつ重要だと思ふ、より充実発展していかなければならないもの

を出し、そしてどうしても解決しなければならない課題を挙げていき、伊賀市の魅力を高める、というものにするほうが良いのではないかと資料を見ていて思った。

(委員)

私は民間企業に長くいたが、企業が会社の方針、年度計画を立てる時に、このようなのんびりした政策・施策・事務事業とやっていたら競争に敗れて成長しない。具体的に、例えば、人口が減少するのは仕方がない。その原因は、子どもが産まれてこないこと、学校を卒業したら大学や就職は他県へ行くこと。では、それに対してどういう政策があるのか。それから今日新聞に出ていたが、市の公共施設が老朽化して耐震工事などをするのに今25億かかっている。もう少ししたら35億かかる。公共サービスは必要だが、財政が厳しい中でサービスばかり言っていられない。民間企業なら稼ぐことが出来なくなったら店舗は閉め、会社の遊休資産は処分する。土地は社で出来ない時は売却する、あるいはどこかに寄付してしまう。すると、そこにまた新しい施設やサービスが生まれてくる。市の不用不急の財産を処分すべきである。これは合併の弊害だと思うが、合併して残った施設をどうするのか、もっと具体的に政策で決めるべきである。子どもが減っていくと学校が問題になる。中日新聞に旧上野市時代の小学校の統廃合が出ていた。子どもは増えないことは8年前の合併した時点で分かっていることなので、それに時間をかけているというのは、それ以降の首長の怠慢だと私は思う。後始末をどうするかという課題が今現在伊賀市に残されている。処理が遅くなったのは今まさに問題だと思う。様々なことに対して課題問題を具体的に挙げた方が良い。今現在書かれている課題問題を分野別に全て挙げ、審議会の委員も認識し、市民にも情報公開してほしい。いつまでもサービスなどと言っているのは、もう耐えきれない市の財政状況だと思う。もう一点、まちづくり協議会に出ているが、資料4の6ページ健康・福祉についてずっとこの流れの通りの議題がある。柘植地区である。非常に活発に行っている。まちづくり協議会の会長をはじめ、私は教育文化部会を担当しているが、僅かな予算で生き生きとしてやっている。

先日も予算不足なのでワンコインで、落語研究家の先生と桂三輝さんと呼んだが、市民センターがいっぱいになって5万円集まり、それで吉本へ支払いが出来て、ゼロで開催が出来た。こんなことを懸命にやっている。これは参考までだが、東京に日の出町というところがある。そこにイオンの大きなショッピングセンターが出来た。これは売上げが年間300億、消費税は今5%なので、地域に1億5000万~2億の消費税が入る。雇用は500人。それから固定資産税と事業所税も入る。それで日の出町は老人医療が無料である。そうすると近所の町から日の出町へ移転してくる。病院が足りないという問題が起きたが、医療費無料で人口が増え、開業医が増えたそうだ。大型店は確かに商店は圧迫するかもしれないが、行政としては大きな収入源になる。経営的な目から見れば一概に大型店反対というのはいかがかと。町の財政をどう支えるか、出るものの節約は大事だが、いかにして税収を増やすかということを経営的には考えなければいけない、まさにその時に伊賀は来ている。どう実行したらいいか、その先が突っ込まれていない。検討委員会でもそこにもっと焦点を当てて議論するべきではないかと思う。

(委員)

資料2で、まず前提で人口減少、財政縮小とあるが、人口減少と高齢化があって、財政縮小という流れになっていくので、高齢化という前提も入れていただいたほうが良いのではないかと思う。それとこの課題の中で「消費が減り、地域経済が縮小する」と先程委員が仰ったのは、逆にこうなれば、消費のパターンが変わり、一概に縮小ではなく、プラスな考え方が出来ないのかということ。それから生活サービスだが、高齢化に伴い、三次産業の育成に力を入れていただけたら良いのかなという気がする。財政の縮小のところでは先程委員が仰ったが、どうしたら収入が増えるかと考えていく中で、行政の財政事情が分からない。行政の広報だけ見ても厳しいのか厳しくないのかよく分からない。市債の状況はあるが特例債の状況は出ていない。もっと民間の人が分かり易い財政の資料がほしい。そういうところからはじめて、スリム化とかいう議論に進めるという気がする。私は

福祉に関わっているが、最近、今まで県が指導していたことが市に移り、市の仕事がどんどん増えている。それで一概にスリム化、効率化では問題がある気がするので、この辺は少し考えながら手を突っ込んでいかないとどこかで破綻をきたすのではないかと思う。それと、行政で行っている、例えば水道、病院事務、保育園などは果たして公でやる仕事なのか。民で出来ないのか。そして選択と集中を行って、今後増えてくる住民ニーズにいかに対応をしていくのか、そういうことも対応策の中で入れてはどうか。また、外国人の方が現在こちらで住んでいて、子どもが産まれてという方も結構みえる。この「女性・高齢者が活躍する地域社会を築く」という中で外国人の方をどう位置づけるかということも考える必要がある。最後に、高齢者人口の拡大ということがあるが、定住者人口、つまり住宅集積を高める、これがスマートシュリンクにも繋がっていくとも思うが、前回も申し上げたが中活のテーマでもある中心市街地へ住宅集積、つまり定住者人口を上げるということももう少し考えていただいたほうが良い気がする。副会長に、自治協議会の制度を導入されて、客観的に見て完成度は今の辺まで来ているのか、教えていただきたいと思う。

(副会長)

ずっと横で見えてきた者として評価をすると、自治協は色々なことをやっているし、多分完成はしない。地域はどんどん高齢者が多くなり、これから地域の自治協で大きな課題になってくる、今でも課題になっているのが、世代交代。第一世代から次の人たちに引き継ぐ、今その過渡期にあり、その世代交代が上手く行ってようやく半分かなという気がしている。こういった小さな地域で皆で何かやりましょうという話は昭和 40 年代後半～50 年代ぐらいにも国策として推進されたことがある。コミュニティ行政であるが、その時に組織を作った人が延々とやっていて、なかなか世代交代が出来ないまま沈んでしまったという経験を多くのところが持っている。その世代交代がこの 10 年の間で出来てようやく道半ばぐらいの話で、世代交代が出来て初めて 80 点で、次に引き継げると思っている。ただ、しくみとしては、資料 2 で言うと、最低限公が担うべきことをこれからも行政が維

持していくために自治協で何かできないかという発想だったので、財政は縮小、人口は減少していくが、セーフティネットはこれからも行政が維持していくということとの引替で頑張ろうということだったと思う。そのような評価である。

(委員)

名張と伊賀で伊賀の方が良いと言ってくれるのは何かという話で、外国人の人は伊賀の方が良いと言ってくれている。伊賀には彼らが働く場があるので長く住んでおり、リーマンショック後帰った方がいて人口は減っては来ているが、その前までは増え続けていた。未だに人口比率4.3%ぐらいなので、三重県で木曾岬町に次いで2位をキープしている。名張で働いて伊賀に住んでいる人も、伊賀に住みながら滋賀に働きに行っている人もたくさんいる。何が違うかというところ、ここ10年20年外国人の人の住みやすさと思ってもらおうと思いつけて活動しているのもあるし、子どもたちに伊賀での労働人口としていてもらうために、教育も一生懸命頑張ってきたので、多分三重県下で外国人の高校進学率は一番である。職場があり、ブラジル食材店が出来、住みやすくなっている。市役所にも通訳がいて、名張市役所は外国人に対して不慣れだが、伊賀ならきちんとした回答が得られる、それは色々なケースを知って、慣れてきているからである。何かに特化して、こういう人たちに住んでもらうようにしようという目標を立てて、かなりマイナスになるのを少しはプラスにしていこうということも必要ではないか、それが今伊賀での外国人だと思う。多文化共生はまだ十分ではないが、10年の間にはかなり進んだ結果だと思っている。外国人はこれからも住み続けてくれると思うので、今私たちが考えているのは、住民協議会の中に如何に外国人の人を巻き込んで、若い働き手としてまちづくりに関わってもらうかということで、去年度から少し始めている。災害について皆今怖く思っているのはやはり地震なので、外国人の人に近所付き合いが大切だと言いつけ、小田と去年やって、今年度からは小田以外の住民自治協議会の人たちとも組んで、一緒に何かやってみれば良いと考えている。外国人の人たちが住んで力となってくれるようにどうすれば良いか

を私たちは関わる者として考えている。

(委員)

名張の対応との違いを教えていただいたが、鈴鹿や四日市と比べるとどうか。

(委員)

鈴鹿や四日市は数は伊賀と比べると多く、鈴鹿国際交流大学などがあり、予算規模は大きいですが、その分丁寧さはないかもしれない。伊賀はコンパクトなので人が繋がりがやすい。教育で何が上手くいったかという、問題のある子どもがいたら通訳や教育委員会が一気にその子のことを考えて動く。この家はそのまま放っておいたら大変なことになるからと、通訳が入り、学校が入り、教育委員会が入り、色々なところが連携してその子が大丈夫なように進めていく。それが四日市や鈴鹿になると、数が多いからか情報が入ってこない。伊賀の場合は小さいエリアなので、すぐ情報が入ってきて繋がる。今言っているのはあの子のことだから、ここではこう教育しているから、そちらからはこうサポートをしてというようなことがすぐに出来るということがある。

(委員)

まさしくコンパクトシティの良い例になるのではないかと。それから副会長が仰っていた世代交代が始まりつつあり、副会長に言わせれば高得点をとれる例ではないか。我々伊賀の人がよくまわりから言われるのが、非常に閉鎖的で、他府県から来た人はいつまでもよそ者であると、結局外国人と他府県の方と同じような形で考えた方が話が早いという気がした。

(委員)

伊賀は、おせっかいおばさんとおせっかいおじさんがたくさんいる、それが魅力である。そのおせっかいなおばさんが、如何におせっかいを焼くかで関わった人が住みやすくなる。外国人の人も、冷たい人もいるが優しい人がたくさんいるからこの町は良いと言ってくれる。それは、お互いが知り合えて、コンパクトシティということになると思うが、知り合いばかり、親戚ばかりで、外国人は親戚が多いので、一つの家族がこの町が良い

と思ったら、あちこちの町から家族を呼ぶので、どんどん増える。働く場が減ってきているのが今少し問題だが、働く場が増えればまだまだ外国人の人は増えると、また盛り返していけるのではないかと考えている。住みやすいということが大分定着しているので。そこはなかなか大きな町、鈴鹿や四日市では真似出来ないし、名張はそれほど人口が少ないので、色々な施策も出来ない。伊賀はたくさんいてコンパクトなのですごくやりやすかったと思う。今度、横浜の国際交流財団が視察に来るが、規模が違うのでどうかと思うが、ここは小さい町なので私たちは出来ているのだということしか言えないが、ただそこはやはり良いところだと思っている。

(委員)

僕は日頃は観光関係の仕事が多いので、その観光自体は流入人口、交流人口の増大が結果的には役に立つが、その中で単語として「おもてなし」というものが出ていたが、「おせっかい」という言葉、我々は自分の持っているものが、他所の方に対してそれが本当にどんな価値を持っているかというのが分からない。今後、着地型観光等の進め方の中で物質的にも精神的にも情緒的にも外からのお客様にどうおもてなしするかという中で、おせっかいでええねんというような、一つヒントをいただいたような気がした。あと、三重県下で今8つか9つフィルムコミッションが稼働していて、伊賀は伊賀と名張で「ロケーションナビゲート伊賀」を3年前に稼働させたが、四日市は去年の暮れにやっとできたところである。四日市の方が経済規模は大きいので不思議に思い話を聞いたら、全国的に30万、40万の規模のところのそういったサポート体制というのは非常に組織しにくい、軋轢が我々以上にあり、結局四日市が最後のほうになってしまったそう。

(委員)

観光の話で、伊賀には英語のガイドボランティアのグループがある。SGGというが、英語圏の方、英語が分かる方が観光に来た時にボランティアで英語で観光ガイド、語り部の英語版、それが出来ている。三重県下でSGGが出来ているのは多分まだ伊賀だけで、伊勢がやっとならうという話になってきたところだと思うが、そういう何かをしようとした時に、小さな

町なので一つで集約できる。四日市、鈴鹿で外国人に対応しているボランティアグループもたくさんあるが、多い分たくさん出来て、それがうまくまとまらない。伊賀の場合は一個一個でしていくので、例えば日本語を教えるボランティアグループといえは私たちがやっている「伊賀日本語の会」が20年、唯一で、色々なことをコンパクトにやるのはこの10万人弱はすぐやりやすいと私はずっと思っていて、この人口を活かして如何におもしろくするかということはずごく重要だといつも思っている。

(委員)

今何の話をしているのか、資料4の検討に入っているのか、まず確認したい。事項書によると今日資料4の基本構想の議論をすることになっていたが、無理である。まだ総合計画とは何かのイメージが全然ない。夢を描くのかそれとも身の丈に合ったものをやるのか。それから、市の現状把握、特に財政に関して今日出ている資料だけでは不十分であるし、よく分かっている人と分かっていない人と、理解の差がありすぎて具体的なことが話せない。人口減少、これも下がることを前提にするということが今日出されたが、この間から議論になっている都市マスのものは本当に良いのかどうか、その3点が共通理解がないと今日事務局が用意した事項書の議論には入れないと思う。総計とは何かの話だが、私はこれからは身の丈に合ったものをとりあえず示すということが責任かと思っている。全体の総合計画なので、本当に身の丈に合った、財政ベースに合ったものにしないと、上手く回らないと思う。分野別計画で観光振興や次世代育成、コミュニティ計画になると少し楽しい夢のある計画にはなると思うが、この総計ではむしろ行財政、社会資本の整備、処分についてなど、厳しい見方がベースになる計画でもあるので肅々とやったほうが良いのではないか。財政のところ、資料8は交付税が下がるというだけのデータだが、私たちが知りたいのは、人口構造が変わる、つまり生産年齢人口がいなくなると税収が減る、その税収の減り方がどういったものなのかという、財政の長期的な見通しと、あと社会資本整備、普段の財政を肅々としているだけではなく、昨今ある道路やトンネル、建物が老朽化してすごくお金がかかるというこ

とを加味し、平成32年ぐらいにどのぐらいのお金が必要で、どのぐらいの
税収があるかという何となくのバランスが分からないと、この先の再生計
画は議論出来ない。事務局には少なくともこのメンバーの共通理解となる
ような財政計画の資料を次回用意していただきたい。それから少子化の話
は、都市マスタープランのフレームをそのまま使うというのが今日の事務
局の見解だった。ただ4ページを見ると、平成32年度までは10万人現状
維持というフレームである。明らかに総合計画と1割違う。そうするとこ
の図を使って本当に良いのかどうか、簡単な図なら使っても構わないが、
共通理解として都市マスそのものでもやはり課題だと、参考までにここの
図を流用はするが、総合計画で身の丈に合ったものが示されたら都市マス
も変えていかなければいけないというところは共通認識として持っていた
ほうが良いのではないかと思う。平成32年から順次縮小していく計画にな
っているという説明だったが、現状、例えばこれから私たちがやろうとし
ているマスタープランの人口の下がり方をみるともっと差が出てくるの
で、その3点は気にしておいたほうが良いと思っている。もう一点、総合
計画、今日基本構想を示していただいたが、この先再生計画で分野別のも
のが出てくる。「再生計画」である。もう破綻しているものをどうやって選
択と集中で重点的にやっていくかという話をこの後に控えているので、構
想のところは共通理解だけ済ませて早く具体のところに入ったほうが良い
気がしている。

(副会長)

先程委員からお話があったように、必要度大、満足度大をベースにして、
良いところを伸ばしていく、そして参考資料2にあったように、課題、必
要度は大きい満足度小というものを今後の10年間の市民の考える課題
のリストとして、この基本構想の中にミックスする形で入れていけば良い
のではないかというご意見をいただいているが、そういった形でこの基本
構想の文言、入れ込むべき内容を、一度事務局でまとめて、次回にお示し
できるのではないかと思う。基本構想で市政再生の方針が全て分野別にな
っているが、必ずしも分野別で書く必要はない。再生計画で市役所がやら

なければいけない部分は分野別で書く必要があるが、基本構想については、人口増加策を睨んで、おせっかいやおもてなしで人、地域の個性を磨き、人が自ずと集まってくるということが、めざす伊賀市の将来像を詳しく書く時の文言として今日出てきたと思う。それを分野別にどうしていくかということが次になる。

(委員)

最初に人口の話で発言させていただいたが、主旨は人口は減るが、減るから少しはその対策もしてほしいということ。ある新聞で日本で一番小さい自治会が記事になっていて、ネットで調べたら、そこは人口が減って減って結局そのような人口になってしまったが、やることは全てやっていた。その対策が個々に書いてあり、それに比べたら伊賀はまだまだ何もしていない。規模が違うので、やれるやれないはあると思うが、見て何もやっていないと、私個人はそう感じた。伊賀に住んでいる人が何を希望しているかは、市民意識調査結果の抜粋、参考資料3の一番最後にあると思う。第1位は医療、第2位は高齢者と子育て。問題は第3位だが、私は公共交通機関と考える。親が伊賀にいながら、子どもが津なら津に通える公共交通機関をつくるという発想が欲しいと思う。子どもを津や奈良の中高一貫校などへ行かせるのは、伊賀に住んでいると無理があるが、本人が行きたいということであれば本人の希望を叶えたい、それが伊賀に住みたくないという一つの判断にもなってくる。それが医療にも影響してくる。ある医者と話したところ、伊賀に常勤医が少ないのは、医者も子どもを中高一貫校へ行かせたいが、伊賀に住んでいると無理があるので、それが一つのネックになっているということである。今までの行政の公共交通機関に対する考え方は伊賀に住んでいる人が大阪や津へ通うのに便利であるという観点はあまりないように思う。公共交通機関、医療、子育ては全て関連してくる。この3つは一つのテーマであり、この3つが解決すれば、伊賀は非常に住みやすい土地になる。今、東京の方で、住宅団地が高齢化し、東京大学と団地と地元とが協議して、高齢者社会の対策の画を描いている。それを見るとやはりネックは医療で、伊賀でもその辺の解決をしていただくこ

と、私は今後の総合計画の中にそういう表現を入れていただきたいと思います。

◆10分間休憩◆

(会長)

資料4「新しい伊賀市の総合計画の骨子」について、議論いただきたい。

(委員)

伊賀市の財政状況は逼迫しているが、必要なものが色々あり、どう選択と集中で絞り込んでいくかというテーマになっていると思うが、一人の経営者として考える時、リストラや、どんどん絞って捨ててというのはきつい。単純に心的なものだけではなく求心力として、伊賀市が外からの人を呼んだり、いる人たち自身が元気になってくるようなものを示すことが、総合計画自体にあると思っている。その意味で、最近の三重県の財政のとり方は印象的で、東京に対して遷宮をテーマに、三重県を売りに行くという明確な方針を示して財政を使っている。市長の「勇気と覚悟」もそういう明確な方向性を示すもので、伊賀市が選択と集中の中でこれが売りだというもの、例えば「おせっかい」は、僕も東京から移住して古山で農業をしていて、とてもおせっかいをされており、やはり独特な文化があるのかと思う。また、インターナショナルといえば忍者というとても強いコンテンツを持っている。それらを総合計画に出す必要はないにしても、良いものがあり、それを稼ぎにしながら、行くところにきちんとお金が行くような、そういうやり方をつくっていかねばいけないと思っている。

(委員)

伊賀市の福祉連盟は、身体、知的、精神、3つの障がいの方々を全て含み一つの組織を運営しており、県下では他にない。3つの障がいの症状の現れ方は全く違い、身体障がい者は日常生活は出来るが、知的障がいには非常にたくさんの補助、援助、介護が必要となる。精神障がいは治る可能性もあるが、治っても尚差別を受け続ける状況もある。伊賀の人間は、許

し合える、支え合える、お互いに繋がり合えるという、先程おせっかいという話があったが、皆で考えようという、根っからの良さのようなものがあるから、3障がいのものが一緒にやっていけるのではないかと思うので、冒頭も申し上げたが、良さをきちんと前面に出す文章の構成をお願いしたい。それから、市長が覚悟ということを書いており、この文章の中で行政の責任と覚悟はどこかで書く必要があるのではないかと思う。

(会長)

今の発言は、健康・福祉ということではなく全般的なことか。

(委員)

まちづくりの政策を各項目ごとに羅列しているが重点的にしたほうが良いのではないか。それと委員が仰っていた、切らなければならないところはやはりズバツと切っていくという、重点となるものは挙げるという、こういう例外も必要だろうという意味である。

(委員)

資料2、3、4に今まで言われたことは全部書いてあるので、原案通りで良いのではないか。

(委員)

委員が仰ったように、資料4の6ページと参考資料7を見ると、全部書かれている。ただ、例えば6ページ「健康・福祉」の政策と資料7を見比べた時、「市民が安心できる医療への再生」、この文章だけでとどまってはよく分からない。具体的に何をするのか、どこに現状問題があってどうするか。参考資料に「医療については、市民が求める安心・安全な医療を提供するため、引き続き、上野総合市民病院の常勤内科医師の確保に全力を挙げて取り組む」と書いてあるので、これを6ページに入れる。「魅力ある病院づくり」というような形容詞は使わない。箇条書き2つぐらいに絞らず、文章でだらだら書くのでもなく、本当に言いたいこと、押さえないことは、一、何、二、何、三、何、以上、という書き方をすべきである。生活・環境も全く同じである。地震に強いまちづくりやRDFのゴミ処理施設についてどうするのか。産業振興も、参考資料7の2ページに独自産業化、

「安心・安全、新鮮な農林業産物を提供しつつ、加工、流通」云々と、既にこういうことを書かれているのであれば、これを資料4にもきちんと書く。具体的にどうするかはその次の問題で、取り組む課題としてははっきり浮かび上がってくる。ハイトピア伊賀も空きが多く、今あまりピンと来ていないが、活用する施策を考えれば人を集める手はたくさんあると思う。事務所の方がもっと外へ出るべきである。独自産業については、モクモクは人を集めていて、農産物、畜産物を作り、加工・商品化、直営店での販売と全て一気通貫でやっている。このような良い事例もあり、たくさん良いことを書いているので、参考資料7と資料4とを上手くドッキングするより分かりやすい総合計画になるのではないかと思う。

(委員)

今委員が仰ったことに賛成である。私たち審議委員も、広報で書かれている財政についてよく分からない。収入と支出、その上に借金があるということの大まかな数字を知りたい。そして、どこに重点施策を置くか。合併して残った建物、後始末をどうするのか、私もすごく興味がある。これは全然進んでいないと思う。合併してまた別のものを作ったりしていて、お金は一体どこから出てくるのかと思う。今抱えている問題を処理していくということでは、再生で今まで総合計画で立てられたものを見直していくので、問題点をこの5つの項目別で掲げてもらえば議論がしやすいのではないか。

(委員)

確かに6ページの「市民が安心できる医療への再生」だけでは不充分なので、救急医療の充実を図ると付け加えるぐらいでどうか。それから9ページの農林業の独自産業化、資料4は短い文章で済ませたほうが良いと思うので、これはこれぐらいが良いと思うがどうか。細かい項目で我々市民としてはそれぞれの課題を挙げていく、それが一番やりやすいと思うので、早くそちらへ入っていただきたい。

(会長)

もうその課題に入っている。

(委員)

4まで終わったと一言宣言しないと、進めないのではないかと。

(委員)

伊賀市再生のための指針のところに市長が掲げる勇気と覚悟がニュアンスで入っていると思うが、財政も逼迫してきている中で行政が出来ることは限られており、市民それぞれが覚悟を持って地域づくりに汗をかいて入っていくというのが、その勇気と覚悟の中身だと思う。まちづくりの政策は、「めざします」ではなく、市民も一緒になって地域をつくっていくというニュアンスを含めたほうが良いのではないかと。最終的な見せ方は別にして、「(仮称)再生計画」で細かい施策は挙げていき、市民への総合計画の分かり易い見せ方はまた後で検討したら良いのではないかと。

(会長)

この原案、資料4について、健康・福祉や生活など分野に並べてあるのが良いかどうかという具体的な議論を進めていただけたらと思う。

(委員)

前回「人が輝く 地域が輝く」というタイトルだったが、そもそもまだタイトルが決まっていないので、それをここで決めるということではないのか。

(副会長)

今回決める必要はないが、皆で意見を出し合い、一番良い言葉を最後に決めれば良いと思っている。

(委員)

むしろ細かいところから入って、最後に決めても良いということか。

(副会長)

そうである、キャッチフレーズなので。

(委員)

最初がないと、よく分からないという感じがしたので。

(委員)

2ページの文章で、「伊賀市は本格的な人口減少・少子高齢社会を迎えて

います。」という表現だが、取りようによっては、これからなると取れないこともない。既にこういう社会になっていることをもう少し強調してほしい。私としては、「伊賀市は既に」という言葉を入れて、この「人口減少・少子高齢社会を迎えています」というのは現在の状況であるということを市民に対してアピールしてほしいと思う。

(副会長)

よいのではないか。今日はこれで申し訳ないが、伊勢に行く。外宮に5～6年関わっていて、今日最後の委員会で、議論は終わり、あとは遷宮に向けて動くだけという締めの会議がある。この議論も、議論はもう良い、後は実行だという時に市役所が実行すること、我々市民がやること、住民協議会、各団体、企業がやるがこの計画の中に活かされていけば良い、そのめざすべき目標が基本構想だと思う。その基本構想は人口減少と高齢化は前提とするが、色々楽しいことが出来るということをも市民にアピールできるような、良い意味での責任と覚悟を求めるような基本構想になれば良いと思っている。

(委員)

委員が仰った、伊賀市の将来像「人が輝く 地域が輝く」を自由に決めて良いかどうかだが、伊賀市は自治基本条例が最高法規として条例化されているので、その中で伊賀市のあり方、ビジョンが示されている。総合計画のあり方は、自治基本条例に基づいてどういう地域づくりの政策を打ち出していくかを定めるもので、条例は未来永劫続くが、総合計画はたかだか10年である。そういう意味の整理を事務局がどう考えているのか確認をしておく必要があると思う。私は、今まで示されてきた資料は、自治基本条例に基づいたしくみの中で総合計画をつくっていくという枠組みが決められている中で議論していると、前提として思っていたので、まずそこを確認しておいたほうが良いのではないかと。もう一つは、新しい市長の下に市長が仰っている政策を実現していくときに、どういう手法を事務局で考えているのかということである。従来の総合計画とは違う形をとるのか、従来通りの形にするのか、まだ説明されていない。どのようなものにして

いくかということがない中で議論するのは非常にあやふやだと思う。基本構想を議論することは必要だが、全体構想として基本構想、大きなビジョンがあり、それに基づく手段としての色々な軸があり、伊賀に将来何が必要なのかということをお我々の意見として出して行くのであれば、それが重点施策、重点コンセプトになるという説明が事務局からない気がするので、そういう理解で良いのかということも付け加えていただきたい。三つ目、委員が言われたことだが、言葉を形容詞だけで止めるなということはお私も大賛成である。「～をめざす」「～を図る」などは方向性を示しているだけで目標になっていない。基本構想で書かれる政策は、数値目標でなくて良いので、到達点が分かるようにするべきである。委員が仰った意気込みを示す「やっていきます」、「これに取り組みます」という言い方も一つの方法だと思う。単純に目標、到達点ではなく、それに向かってやるという意気込みを示すのも一つの方法である。それは皆で議論して、どういふ書き方をすれば良いか、政策を書くというよりは目標を書く。どのような社会が望ましいか、どういふあり方が必要なのかということを書き込んでいく形で議論すると少し前向きな形が出来るのではないかと思う。

(事務局)

自治基本条例との関係だが、自治基本条例は伊賀市の最高規範として位置づけたものであり、その中でも将来像である「人が輝く 地域が輝く」を謳っている。前回の新しい総合計画の構成イメージでも説明させていただいたが、新市建設計画あるいは自治基本条例の将来像、基本理念と整合性を図っていくということで考えている。重点施策についても「(仮称)再生計画」での重点施策として、医療の再生、観光・農林業の再生、これは市長の政策理念の3つのうちの2つを挙げている。ムダのない財政については全般にわたるものになるので構想の中での指針として挙げていく考えである。

(委員)

そういう前提であれば、最初の「人が輝く」の下に書いてあるのはビジョンではなく、市政再生の指針に近い、市長の問題提起の中にある市のあ

り方で、それを皆で一緒につくりましょうという呼びかけの文章であり、将来像を説明していることにはなっていないのではないかと。もう少しビジョン、社会のあり方やどんな暮らしがそこにあるのか、皆のイメージとして今の課題を考えた時にどのようにしていったら良いかを書けると市民にも分かり易いのではないかと。前回のビジョンで前市長が伊賀市の中心街から旧上野市街地と周辺部の振興計画をつくったランドデザインの冊子を使っているが、個人的にはわかりやすいと思っている。一期の「人が輝く」の計画を市長が変わった後でもう一度整理して出されたと思うが、中心部の活性化と地域の充実という二つの見開きの表紙にして市民に示した中にもどういった地域にしていくかということが見えるので、そういう見せ方が1ページ目のところに本冊をつくるときには必要ではないかという気がするが、これから議論等が高まっていけば充実していくのではないかと思つた。

(委員)

ランドデザインはこの資料にあるか。

(委員)

今回の資料にはなく、私のところに残っていたものである。中心市街地の活性化、例えばハイトピアと駅前整備、(仮称)芭蕉翁記念館と市役所の話を中心にして、周辺部の振興策をちりばめた形で一覧表で見られるようになっている。

(委員)

都市マスタープランを凝縮したものか。

(委員)

都市マスもその時動いてきたはずなので、同じような形になっている。4年ぐらい前の話で、都市マスを検討している中で、ある程度案が出来た後である。

(会長)

次回資料をお示しいただき、ある程度この場で議論をさせていただくことにする。

(委員)

2ページに委員の提案のように目標の文章を入れるのか。

(委員)

2ページはもう少し暮らしぶりや社会のあり方を議論のキーワードを入れた形で文章化したほうが良い。これは宣言文になってしまっているので、将来像が少し弱い。計画に入れるというのは、分野別の6ページ、7ページ以降の「まちづくりの政策」の書き方として、委員も仰ったが、方向性だけでなく目標を意識した日本語にしたほうが良いという意見を申し上げた。

(委員)

呼びかけの文章としては勇気と覚悟も書いてあって良いとは思いますが、呼びかけプラス目標をまた考えていくということによいか。

(委員)

そこを議論で深めていくべきである。

(委員)

呼びかけの文章はめざす伊賀市の将来像のところへ書くべきことなのか。今後の伊賀市、少子高齢化を迎えて人口減、税収減という状況の中、危機感だけが謳われて、団体・市民・行政が果たすべき役割、責任が前面に出すぎていて、めざす伊賀市の将来像と言いながらめざす姿が見えない、悲壮感だけが出ているようで、最初から息が詰まる思いで読んだ。今後、主体となって果たしてやれるのかというしんどい思いでここにいる。やはり、行政がどれだけの支援が出来るのか、市民が本当に主体となってやっていける体制をつくっていけるのかということが大きな課題だと思っているので、夢を語るときではないと言われるが、めざす伊賀市像を共有し、それぞれがどういう役割を果たしながらその目標に向かっていけるのかという形で書いて、一緒にやりませんかという文言でないほうが良いと思っている。

(委員)

呼びかけプラス目標で良いのではないか。人口減少と呼びかけは深刻で

あると捉えてしまうと先に進めないので、人口減少はビジネスチャンスであるとプラスに発想を変えていただきたいと思う。

(委員)

私は、これから迎える人口減少の問題をどれだけ市民全体が受けとめているのか、その中でこういう形でめざす伊賀市の将来像を訴えて、果たして本当に市民の協力を得られるのか、というところに危惧を覚えているのであって、私自身が受けとめられないと言っているわけではない。

(委員)

事実を上手く市民に伝えようということか。

(委員)

そうである。市民と課題を共有しながら一緒に取り組んでいけるように目標とおかれている状況の説明をはっきりすべきである。

(会長)

委員の言っているのは将来像のことである。将来像は、人口減少をはっきり謳うべきというのが皆のおおよその意見である。

(委員)

私自身もそれは言うべきだと思っている。そういう状況の中で何をめざすかということを明確にした方が良いということを行っている。

(委員)

内容はほとんど皆言っていることは変わらない。どうまとめるかだけである。

(会長)

今の意見を聞き、事務局に作文をお願いをする。委員の意見をまとめて事務局に一任としたい。

(委員)

目標は最後の委員会で決めても良いのではないかと。

(委員)

進め方の提案である。今日基本構想を固めたいというのが事務局の意見だったと思うが、それは難しいと思う。今出ている意見を整理すると、ま

ず将来像がまだ全く示されていない。これは単なる呼びかけであって、将来像のところに入るものについてはまだ出ていない。議論の中でもう少し個別具体的にやっていると将来像が固まると思うが、これを事務局に一任しても良いのか。できれば委員の中で何人かで考えてくれるほうが審議会を進めることとしては良いのではないかと思う。それから基本構想の柱について、もうこのままで良いのではないかという意見。ただ、副会長は少し枠組みを変えた方がおもしろいのではないかということも言い残して行った。私個人は仮置きしておいて、再生計画を具体化してからもう一度柱を触るかどうかは議論し直しても良いのではないかという気がする。まだ全員が議論できるだけの財政ベースの資料が出ていないし、再生計画で重点施策が決まれば、構想自身も縦割ではなく、一本化された枠になるかも知れないので、今はあまり文言のところを突っ込まず借り置きし、再生計画を2、3回やった後でもう一度戻る形でどうか。整理すると、将来像に関しては何人かで考えてきてはという提案と、基本構想はとりあえずこの柱でいってみて何回か後に振り返るということでどうか。

(委員)

結構だと思う。

(委員)

委員が仰ったやり方で良いのではないかと思う。基本構想に関しても、この5つの柱でやっていくのは少し難しく、横の繋がりがあるものであるのに限られてしまう部分が出てくるので、借り置きで置いておいて、まとめていって最後どうなるかという形が良いかと思う。

(委員)

発言がスクランブルになってしまって、好きなことを言うのであれば色々思うことはあったが、今言う意見は特にない。

(委員)

進め方のところは今議論が拡散する場なのか集約する場なのかが分かりにくく、意見がどう活かされていくのかという部分が進行の中で見えてこないで、いつまで経ってもまとまらないのではないかという危惧もして

いる。最初に、慣れている方の、特に進め方について意見を聞き、流れをイメージしてから話に入っていくと効率的ではないかと感じた。

(会長)

委員の提案である将来像の示し方をどなたか次回までに考えてきていた
だけか。

(委員)

皆で考えてくるということではないか。

(会長)

たたき台になる将来像を委員の中で、あまりこういった作業に関わって
いない方で考えてみることも市民の手で作りに上げるということからすれば
大切ではないかと思うので、どなたか手を挙げていただきたい。示してい
ただいたものを事務局に事前に配布していただき、次回まとめるというこ
とでどうか。

(委員)

これは市長の諮問機関である。市長自身が「勇気と覚悟で築こう未来に
誇れるまち」というキーワードを仰っているが、それを通じてビジョンを
お持ちであると思うし、それで選挙で通ってきていると思う。医療、観光、
農林業などキーワードはいくつも常に投げている。諮問機関の役割として
は、市長のリーダーシップ、あるいは市民アンケートから出てくるものか
ら、例えば皆でおせっかいになろうとか、将来の市の取り組み姿勢などビ
ジョンを拾い上げていくような、そういう作業ではないかと思うが、どう
か。

(委員)

やはり色々な意見と市長の意向も踏まえて、企画課できちんとした案を
つくるべきである。委員それぞれがやる作業では、私はないと思う。

(委員)

市長にヒアリングしたものをここに載せていると思うが、今日の意見を
市長に投げかけていただき、企画から素案をつくっていただく形でどうか。

(事務局)

事務局としては、皆さんからいただいた意見を全て反映することは難しいかもしれないが、一定の将来像、めざすべき姿を考えることは可能である。ただ、委員が仰った、この委員の中で出してきたものを答申として最後に出していくという姿勢ということからいけばどうかと思う。

(委員)

市長の政策ありきでやっていくというのも審議会のあり方としては疑問を覚える。

(事務局)

仰っていただいた意見を踏まえて事務局で一度考え、出させていただくということによろしいか。

(委員)

一週間前までに事務局に各委員が目標を考えて出すということかどうか。どうしても考えられなかった方は仕方がないで良いのではないか。

(委員)

メールで出せば良いのか。二週間以内でよいか。

(会長)

この将来像の部分の本日出席した方は皆の意見を承知していると思うので、それを踏まえてまず私たちがたたき台を事務局へ出すという形によろしいか。

(委員)

出したものを集約してまとめていただくということで良いか。皆、出さなければ、出たことを次の議論にしてしまうとまた進まないと思う。

(事務局)

いただいたご意見、たたき台を事務局でまとめ、また開催一週間前までに返すとなると、今日から一週間以内には必ずいただきたい。

(委員)

とりあえず羅列で良いと思う。

(委員)

何文字以内など制約はあるか。

(事務局)

文字数の制約は特にはないが、今書かれている程度の文字数でお願いしたい。

(会長)

日程的な問題もあるので、お寄せいただける方の意見を集約して提案していただき、それが我々が今日審議したものの総意と間違いやズレがないかを次回確認させていただくということでしょうか。

(委員)

それで回数を重ねていけばまとまると思う。

(委員)

とりあえず借り置きという形で、再生計画で色々議論が深まっていけば変えることもあるだろうが、ひとまずはそれでよいのではないか。

(事務局)

25日の火曜日中にはお願いしたい。メールで送っていただく場合のアドレスは、kikaku@city.iga.lg.jpである。

(会長)

25日までにFAX、メールでお寄せいただければ事務局でまとめていただけると思うのでご協力をお願いしたい。これまでの議事全体を通して何か意見・質問などあるか。

(委員)

伊賀市の財政は赤字か。

(事務局)

24年度の決算を締めたところだが黒字である。

(委員)

財政危機と言われるが、どの辺が危機なのか。

(事務局)

市長が言っている通り、公共施設などをきちんと締めていけば危機は来ない。

(委員)

	<p>締めるというのは、</p> <p>(事務局)</p> <p>財政というのは社会主義と同じ計画経済である。これだけしか入ってこないからこれだけしか出来ないというように財政の計画は立てていくので、赤字にしないように前もって色々と処理をしていけば赤字にはならない。</p> <p>(委員)</p> <p>今のまま行っても赤字にはならないのか。</p> <p>(事務局)</p> <p>今のまま行くと危ないと言っているのである。</p> <p>(委員)</p> <p>締めるというのを具体的に言っていていただくと何をすることになるのか。</p> <p>(委員)</p> <p>もう次へいく時間なので、失礼する。</p> <p>(会長)</p> <p>それでは、これで議事を終了させていただき、事務局へ進行を戻させていただきます。</p> <p>(事務局)</p> <p>長時間にわたりありがとうございました。次回第3回は7月17日水曜日、2時から、この場所をお願いしたい。今日いただいた意見を踏まえ、特に将来像の部分と改めて資料も揃え、開催日の一週間ぐらい前には送付させていただくのでよろしくをお願いしたい。以上、本日はどうもありがとうございました。</p>
<p>問い合わせ先</p>	<p>伊賀市企画財政部企画課</p> <p>〒518-8501 伊賀市上野丸之内116番地</p> <p>電話：0595-22-9620 FAX：0595-22-9628</p> <p>Eメール：kikaku@city.iga.lg.jp</p>